

「主の栄光は地に満てり！」(2026. 5. 17)

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主なる神。

主の栄光は地に満てり。聖なるかな、主なる神。(讃詠・讃美歌 21-83)

聖日礼拝において私たちが最初に発するのは讃詠です。前奏、招きの詞を受けて、まず主なる神を賛美し褒めたたえるのです。礼拝堂に集った一人ひとりと心を合わせ、主に向かって心の底から賛美を捧げるのです。

まず「聖なるかな」と詠います。横手教会では「主の祈り」を文語訳から口語訳に変えました。「み名が聖とされますように」と、「聖」という言葉を発することが多くなりました。「聖なる」とは、清く汚れないと同時に「他と区別される」ことです。主なる神は、その存在そのものにおいて、愛や義という性質において私たちの思いを遥かに超えて高いということです。

その存在は唯一であり、すべてのものの上であり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます(エフェソ 4:6)。その愛は、私たちすべてのために、御子をさえ惜しまず死に渡される(ローマ 8:32)ほどです。そして義ですが、1点の曇りもなく正しく、如何なる罪も裁くことなしに放置されることはありません。だから、神は人から侮られることはありません(ガラテヤ 6:7)。

そして「主の栄光は地に満てり」と告白します。神の存在、愛、義がこの地に、私たち、教会、この世界の隅々に満ちています。地震や津波、殺人や戦争で呻く声が溢れているのに……。そういう問いが沸き起こってきます。でも「主の栄光は地に満てり」なのです。十字架のキリストが浮かんできます。神ご自身が共に苦しまれている。そういう形で栄光が現されている。真理の霊が悟らせてくれます。



「主なる神」とは「ヤハウエなる神」です。それは、「生ける神」と言い換えて良いでしょう。今ここに共に生きておられる神です。讃詠の言葉一つひとつを噛み締めて、聖霊に溶かされて賛美しましょう！